

授業科目

視覚機能訓練学I

担当教員名 村田 憲章	対象学年	2	対象学科	視機
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	◎	

授業の概要

視能訓練の基本的知識と技術を身につけ、検査結果の正しい評価および、斜視弱視患者の診断に必要な検査について学ぶ。

授業の目的

視能訓練の基本的知識と技術の概要、斜視の各論および診断に必要な検査、眼位検査・網膜対応検査・眼球運動検査・大型弱視鏡の使用方法和検査結果の評価法についての理解を目的とする。

学習目標

1. 視能訓練の基本的知識と技術が理解できる。
2. 斜視の各論および診断に必要な検査が理解できる。
3. 眼位検査・網膜対応検査・眼球運動検査・大型弱視鏡の使用方法和検査結果を説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	ガイダンス 授業概要、ノートの作り方	講義	村田 憲章
2	小児の視覚特性、感受性期間と読み分け困難 年齢に応じた検査の選択	講義	村田 憲章
3	弱視の基本的知識、弱視の原因的分類、嫌悪反射、固視検査、γ角陽性	講義	村田 憲章
4	弱視の各型、弱視の原因的分類と重症度、視力予後	講義	村田 憲章
5	弱視の検査、診断、眼科一般検査、固視検査、他覚的、自覚的検査、眼位検査の流れ	講義	村田 憲章
6	弱視視能矯正 遮閉法、Penarization 法、Moore-Johnson 法、逆プリズム法、Pleoptics	講義	村田 憲章
7	小括	講義	村田 憲章
8	弱視、斜視の診断に必要な検査	講義	村田 憲章
9	斜視の分類 先天斜視と後天斜視の違い	講義	村田 憲章
10	斜視の基本知識 感覚・運動系の異常、屈折と調節の異常	講義	村田 憲章
11	斜視の光学的矯正 調節麻痺剤を使用した他覚的屈折検査の重要性	講義	村田 憲章
12	斜視の治療、観血的療法、強化術、弱化術、原田-伊藤法、水平筋上下移動術	講義	村田 憲章
13	弱視の長期経過	講義	村田 憲章
14	斜視の長期経過	講義	村田 憲章
15	まとめ	講義	村田 憲章

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	視能学 第2版	丸尾敏夫、久保田伸枝、深井小久子（編）	文光堂	2011年	18,000円+税	
参考書	小児眼科学	東範行（編）		2015年	24,000円+税	三輪書店
その他の資料	必要に応じて資料を配布する。					

評価方法

定期試験: 50%
小試験: 20%
提出物: 20%
受講態度: 10%

履修上の留意点

再試験、追試験は必要があれば原則1回のみ実施する。
締め切りを過ぎた提出物は原則として受け取らない。
質問に対して率先して答える積極性、将来の医療人として相応しい接遇などを、受講態度として評価する。

オフィスアワー・連絡先

毎週水曜日の昼休み
P201
murata@nuhw.ac.jp